あけぼの

第47号　2021．３．１
宇和特別支援学校
（知的障がい部門）
図書館発行

「先人に学ぶ」

教頭　宮内　俊洋

「おぼろなる　月もほのかに
雲かすみ　晴れてゆくへの　西の山の端」

これはある人物の辞世の句ですが、詠み手は誰だと思いますか。答えは武田勝頼です。勝頼？誰？と思った人も多いかもしれません。武田信玄（晴信）という偉大な父の四男として生まれた彼は、いろいろあって信玄が病死すると、武田家の当主となります。しかし、武田家は「長篠の戦い」で織田・徳川連合軍に大敗し、信玄の死後、僅か九年で滅亡してしまいます。勝頼は、君主になるには暗愚で凡庸な人物だったのでしょうか。実は、彼は武勇に優れ、父信玄でも落とせなかった難攻不落の高天神城を攻略するなど、武田家の領地を最大化させました。それなのになぜ…？その謎を解くには伝記を読むしかありません。読めば、彼を取り巻く環境（主従関係、領国経済、地政学等）を知り、その立場に自分を置くことで、その謎は少しずつ明らかになっていきます。またそれと同時に、「他に手の打ちようはなかったのか。」、「この危機をどのようにすれば回避できたのだろう。」などと自問自答するようになり、自然と生きるためのヒントを得て、自分の在り方や生き方を考え直す契機となります。

最近は『嫌われる勇気』（岸見一郎氏）や、『自分の中に毒を持て』（岡本太郎氏）など、自己啓発を主眼とした本を読むことが多くなりました。これはこれで大変興味深いのですが、一般化しすぎており、すでに正解らしきものが書いてあるため、納得感はありますが、面白味に欠けてしまいます。そこで、今回は皆さんに私が中高校生の時にハマった伝記を是非読んでほしいと思い、お薦めの人物とその理由を少しだけ紹介させてもらいます。

一、石田三成

秀吉が鷹狩りの帰りに立ち寄った際、寺の小姓であった佐吉（後の三成）が出した「三献茶」の逸話や、秀吉をして「百万の兵を指揮させてみたい」と言せたほどの大谷吉継（刑部）が、徳川家康に対する挙兵を反対しながらも、最後は彼の覚悟を前にして持病（おそらくハンセン病）を抱えながら参戦を決意したことを考えると、かなりの好人物であったと推測できます。反面、正直者で官吏の鏡のような三成は、加藤清正ら武断派とよばれる豊臣家の家臣団からはかなり嫌われてしまいます。誠実だが不器用だった彼の生き方からたくさん学んでみましょう。

二、明智光秀

大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公である光秀は、知勇を兼ね備えた名将であり、織田家の重臣として活躍したのですが、中国地方の毛利氏攻めの軍勢を主君である織田信長に向け、殺害（本能寺の変）してしまいます。なぜ彼ほどの人物が謀反をするに至ったのでしょうか。このミステリーを解いてみてください。

三、栗田健男（大日本帝国海軍中将）

太平洋戦争末期、日本の石油の補給路を断つためフィリピンに侵攻したアメリカに対し、日本は空母六隻を擁する機動部隊（小沢艦隊）が囮となって敵を北方に引き付け、その隙に戦艦大和を中心とする遊撃部隊（栗田艦隊）が、レイテ湾に侵攻し、敵艦隊と上陸部隊を殲滅する作戦を実行します。囮部隊は見事に敵機動部隊を北方に引き付け、栗田艦隊はレイテ湾に突入し、作戦は成功するかに見えましたが、ここで栗田は敵の陸上部隊を目前にして反転をし、千載一遇の好機を失ってしまいます。さて、皆さんも当時の戦況や栗田自身になって、この反転の真相に迫ってみてください。

以上で、紹介は終わりますが、伝記は過去の事例を通して、私たちが「よく生きる」ための指針となってくれます。古代ローマの歴史家クルティウス・ルフスも「歴史は繰り返す」と言っています。いつの時代も人間の本質には変わりがないため、過去にあったことは、また後の時代にも繰り返して起きる可能性が高いということです。戦争などの惨禍を二度と繰り返さないためにも、歴史や先人に学ぶことはとても重要です。また、ドイツの鉄血宰相ビスマルクは、『愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ』と言葉を残しています。経験から学ぶことは大切なことですが、何かを判断する際には、自分の経験則だけに頼るのではなく、他者も含めた過去の歴史に学ぶことで、より良い判断ができるのではないでしょうか。皆さんが伝記を通して歴史を学び、よりよい人生を送ってくれることを期待しています。

読書感想画作品展

「さんびきの　こぶた」
小二月　上甲　陽大
西村　琉征
藤田　凰介
松浦　孝太

「スイミー」
小五月　沖本　千紗
木村　彩里
髙橋　幸笑
戸梶　茜梨
山内　美優
小五星　河野　凌大
三瀬　翔大

「おにはうち　ふくはそと」
中1A　赤松　玲那
梅田　拓弥
亀岡　一稀
松浦　正弥
山崎　悠太

「おいもほり」
中1BD　朝田　統野　井上　瑠菜
塩見　大嘉　山本　悠生
和氣　一生　宮本　恒誠

「にじいろのさかなとおおくじら」
中1C　江尻　陽和　窪　龍輝
中川　竜志　山窪　塁希
山崎　惣太

読書感想文

『大地』を読んで

高等部三年G組　築田　幸実

私が読んだのは、塔和子さんの詩集『大地』です。三十近くの詩が載っています。その中で私は、この本の題名にもなった「大地」という詩が一番好きだと感じました。この詩の中の「草の花さえいのちの美しさを見せてくれる」や「力強いいのちがつたわってくる」など、「いのち」を漢字ではなく平仮名で表現しているところです。そこから「いのち」の温かさややわらかさを感じました。そして詩全体もとても温かくて、それでいて大きな力で包まれた印象をうけました。私はこの詩から感じた雰囲気を味わい、この詩がつくられた背景を想像しながら読みましたが、とても明るいなと思いました。「大地」のすごさを感じました。

この本には「大地」の他にも素晴らしい詩がたくさん載っています。「弦楽器」、「淋しさ」、「夢」などもお薦めです。「弦楽器」は私自身の心情を表しているようで、とても共感しました。一つのフレーズというわけではなく、詩全体が私の感じていること、思っていることを的確に表していて、「わたしと同じように思っている人もいるんだ。」と少しうれしい気持ちになりました。

「淋しさ」という詩は、「誰か」に向けてではなく「自分」に向けて言葉を投げかけているところが好きだと思いました。「努力をしなければと思いながら（中略）さぼってしまう始末の悪さ」というところがあるのですが、ここは自分自身のことと重なり、はっとさせられました。詩の初めには少しネガティブな印象が伝わってきましたが、それでもどこか、きれいな印象を受けました。最後の方には、夜明けのように少しずつ明るくなる、そんな風に感じました。森の奥深く、または深海のような静けさの中で、どこか穏やかな光が感じられる詩だと思いました。

「夢」は、ふわふわとしているように思いました。素敵な表現が多く、まるで自分がこの「夢」を見ているような感覚になりました。最初は明るい印象の詩だなと思いましたが、最後の「覚めるな／覚めるなと　思いながら」という一文で、なんだか少し切ない、現実におびえているような感じがしました。でも後から、穏やかに微笑みながら、幸せをかみしめているようにも思えて、そこがふわふわとあいまいだなと思いました。

ここに書いた詩以外も良いものばかりで、きっと読む人によって解釈が変わるのだろうなと思いました。詩のおもしろさを感じました。これからも様々なジャンルの本を読んでいこうと思います。

『地球と宇宙』を読んで

高等部二年B組　水谷　愛美

私は『地球と宇宙』の本を読んで、私達の身の回りにはいろいろな自然現象が起きているということが分りました。

私が一番不思議に思った自然現象は、日食と月食です。まず、日食には皆既日食や部分日食、金環日食があります。新月のときに地球から見た月がちょうど太陽に重なったときが日食です。写真を見ると日食は指輪みたいに見えて不思議でした。太陽がこのような形になるなんて驚きました。次に、月食は満月の時に太陽と地球と月が一直線になると、月の表面に地球の影ぼうしが写るようになる現象です。月食にも部分月食と皆既月食があります。写真の月食は、暗くて見たこともない色になっていました。いつも見ている月とは全然ちがいます。私も実際に見てみたいなと思いました。

他にも、私が一番きれいだなと思う自然現象がありました。それは虹です。雨上がりに大地から空にかけて橋のような形をした美しい虹が見えます。色は外側から赤、だいだい、黄、緑、青、藍、紫の七色です。虹は、太陽の光が空気中の雨粒に当たって、いくつもの色に分離してできるそうです。光は、色によって雨粒の中で曲がったりはね返ったりする角度が決まっているので、七色に分かれて見えるということでした。私の好きな虹がこのようにできていることを知って驚きました。今度、雨が止んだときに虹をよく観察してみたいです。そしてそのときは友達に、「色の順番は決まっているんだよ。」と教えてあげたいです。

この本には、地球と宇宙についてたくさんのことが書いてありました。今まで知らなかったことを知ることができてよかったです。私の身の回りの自然現象について、これからも勉強していきたいです。

『こども図鑑　のりもの』を読んで

高等部　二年G組　尾上　京輝

僕は乗り物が大好きです。鉄道、自動車、大型車、飛行機など乗り物は何でも好きですが、最近はトラックにはまっています。デコレーションしてあるトラックを見ると、うれしくて動画を撮るほどです。

僕は、毎年、家族旅行で鉄道や飛行機に乗ったり、旅行先でしか見られない列車を見たりして楽しんできました。しかし、今年は新型コロナウィルス感染症の影響で、旅行にも行けず、いろいろな乗り物を見ることもできないので、少しつらいです。そこで、最近はユーチューブで乗り物の動画を見たり、町の中で走っているトラックなどを見たりして、気分転換を図っています。一刻も早く新型コロナウィルス感染症が収まり、県外に出かけて好きな乗り物を見たり乗ったりできることを祈っています。

僕がこの本を選んだ理由は、乗り物のことを強く知りたい、記憶に残しておきたい、いつか見てみたいと思ったからです。この本では、鉄道や飛行機、乗用車、トラックやバス、消防車や警察車両、いろいろな種類の重機など身近な乗り物から特殊な乗り物まで幅広く紹介されていて、その乗り物に関する情報がたくさん載っていました。身近な場所で見かける車や列車が載っているのを見つけると、うきうきして楽しかったです。乗ってみたい車両や一度は見てみたい車両をこの図鑑から見つけ、詳しい内容を知るとわくわくしました。この本で初めて知った乗り物をどこかで見かけるかもしれないので、覚えておきたいです。

この世界には、本に載っていない乗り物や重機などがたくさん動いていると思うので、いつかどこかで見つけたいです。また、学校の図書室や町の図書館などで、乗り物関係の本を読みたいと思います。

図書委員会活動の紹介

今年度は、コロナウィルス感染予防対策のため、昼休みの図書室利用やお話会が中止になりました。三密を避けるため、各学級の図書室の利用も大幅に制限され、図書委員の活動は主にクラス文庫の管理が中心となりました。

図書の貸し出しをチェックしたり本の題名を書いたりするのは難しかったけど２年生でもやりたいです。

多読賞

本校では、「児童・生徒の読書意欲を高める」ことを目的として、毎年多読賞の表彰を行っています。

選考基準は、四月から一月までの貸し出し冊数が、小学部は二十冊以上、中・高等部は五十冊以上です。（ただし、今年度の高等部の貸出冊数には、クラス文庫からの貸出数も含めています。）

今年度は、十名の生徒が表彰されました。

小学部	三年月組	加藤　秀明	二十八冊
小学部	三年月組	德政　恵汰	二十四冊
小学部	三年月組	野本　爽太	二十七冊
小学部	三年星組	木原　光之輔	二十五冊
小学部	五年月組	木村　彩里	二十二冊
小学部	五年月組	高橋　幸笑	二十一冊
高等部	一年A組	笹田　創汰	七十冊
高等部	一年F組	渡邊　真里香	百八冊
高等部	二年B組	赤松　龍馬	百三十五冊
高等部	二年B組	奥谷　維吹	百二十五冊